

令和7年度双葉町復興町民委員会（第1回）

議事概要

日 時：令和7年2月3日（月）10：00～12：00

場 所：双葉町役場 大会議室2

議 事：

（2）双葉町のまちづくりの現状について

- 第三次計画の検証について、本日は資料1枚での説明であったが、反省や課題について詳しく確認したい。
 - （事務局）事業数が120と多いこともあり本日は簡素な説明とした。
 - 第三次計画策定の際には、策定後にどれくらい委員たちと議論されたのか。
 - （事務局）設置要綱に基づき、復興部会も活用しながら検討を進めている。
 - 第三次計画策定にあたって立ち上げた町民委員会は解散になっているか。
 - （事務局）第三次計画の際に組織した町民委員会は計画策定で任期満了となっている。
 - 計画を策定して終わりではなく、定期的を開催し、進捗を適宜報告しながら進捗管理していくとよいのでは。
 - （事務局）ご意見を踏まえて、議会への報告など進捗管理を充実させていきたい。
 - （委員長）第三次計画はアフターフォローが十分ではなかったため、第四次計画は計画策定後も定期的に進捗報告の機会を設けたい。
 - 委員の中でも事前に打合せをするなど、資料を読み込んで参加できるとよい。
- 資料4、1ページの現状について、進捗管理であれば数値目標を持って管理していかるとよい。
- 関連して、PDCAサイクルが行政の予算・執行に閉じていて、町民が関わる形になっていないことが課題では。
- （事務局）ご意見を踏まえ、検討したい。
 - （委員長）移住したい方にとっても、避難先で生活がある程度定着している方にとっても、双葉町の進む方向が共有できるほど、町内でのチャレンジの敷居が下がると思っている。その上では、情報をネガティブなものを含めて発信していくことが重要。貴重なご意見だと思うため、事務局で是非検討いただきたい。
 - 第三次計画ではこういった方向を目指してきたかを教えていただきたい。
 - （事務局）町への帰還を目指して避難指示の解除前に策定されたもので、町への特

色を打ち出すような点はこれからであったと考えている。

→（委員長）第三次計画の策定にも関わったが、当時は帰還に向けて必要なインフラを整えていくことが重要であった。だんだんと整備が進んできた中で、これからはどのような特色をつけていくかが重要になってきている

（3）「双葉町復興まちづくり計画（第四次）」の検討状況について

- 町内居住人口 200 人という中で、町の復興には離島振興の知見が生きてくるのでは、と考えている。町民の多くが避難先で基盤をつくっている中で、帰還には思いと現実との間に葛藤があるのだろうと思っている。資料にある、ライフスタイルに応じた関わり方が必要だと思う。
- ライフステージの変化の際に双葉町を選んでもらえるよう、町への想いをつなぐこと、適切な施策を打っていくことが重要では。離島でも人生のタイミングに施策がマッチしてUターン・移住されている。
- 今後はなりわい・コミュニティが重要となっていく。町の資料にも「挑戦のまち」とあるが、起業・創業といったチャレンジがしやすいとよい。コミュニティをしっかりと作り、帰還者・移住者が一緒となって町をつくっていけるとよい。
- 町民とのつながりに課題を感じている。スポーツを通じてつながりができるとよいと考えている。町民体育祭には 200 人が参加いただき、よろこんでいただいた。これからも町民同士のつながりに資する取組をしていきたい。
- 日中は仕事で、週末は福島市に自宅があるため、近所付き合いができていない。気軽に交流できるコミュニティができるとよい。
- アンケートの回収率が 3 割を切っている。7 割超の方が興味ないということは課題では。こうした方の声や意見を拾っていくことも重要。
- 移住・定住に満足している方について、どの施策に満足しているのか、自身は利用する方なのか、利用はしていないがメニューに満足しているのか分析も必要。
- 農業の再生について満足度は 18.2%だが、どこに満足しているのか分析が必要。
- 双葉町の特色を発信していくことが重要。その上では、生活をしている人、活動している人、関わってくれる人が重要で、現在双葉町はコーヒー店、東北大学、コトラボなど人が目的になっている場所だと思っている。
- 選ばれるためには知ってもらうことも重要。対外的な情報発信に力を入れていけば回答率や関心の向上につながるのでは。
- アンケートをみると、戻りたいと回答した 1 割の方のほとんどが高齢者と聞いている。亡くなっている人、施設に入る人も増えていくと見込まれ、課題だと考えてい

る。

- 浅野燃糸など企業が立地しているが、従業者に双葉町民が少ないことも課題であり、町内に住居を増やしていくことが必要。
- 単身世帯が多いため、つながりをつくる活動を大切にしている。
- 少子化・過疎化の課題に対して、10年後の姿を描くうえでも、世の中はどんどん変化していく。今回の資料で掲げられた基本理念は変わらないものとして進めてもらいたい。
- これから変わるものとして就業環境がある。在宅ワークが進むと、渋滞がなくなる一方で、建てた施設が不要になる可能性がある。
- 増加する高齢者に対応していくことも重要だが、若い人に選ばれていくことも重要である。
- アンケートにある自由意見について、箇条書きでも共有いただきたい。
- 教育施設について、地域に開かれた学校を目指しているが、地域の知恵を借りながら、楽しい学校生活を送れるようにまわりの環境も含めてお願いしたい。
- 伝統文化をこどもに見せれば心に残り、やりたいと思う子も出てくる。町内に11団体あったが、3団体になり、つぶれている団体もある。気軽に体験できるように取り組んでいきたい。
- 避難指示解除されていない行政区が半数ある。農業ができるようにならないと帰ってきたいという気持ちになれない。農業ができるようになって、米の作り方しか分からない方が多い中でどのように農業をやっていくかが重要。
- 10～15年の中で、高齢化を感じている。双葉町への想いは強いが、震災前は原子力発電所で働きながら農業をしていた方が多い。
- アンケートの回答が少ないのは、高齢者が体力的に無理だと感じていること、こどもの家庭が避難先で生活基盤を築いていることも要因の一つだと思う。
- 商工会は会員数が減少していて120会員ぐらいという状況である。中野地区復興産業拠点に優良企業が立地しているが、新たな企業と商工会がどう連携していくかが重要。商業施設が整備されてきているが、震災前の事業者の再開が難しい状況にある。町とも連携しながら小さく始められるスタートアップなど、チャレンジを応援していきたい。
- ブランドの方向性に共感した。町長の想いである「面白い人材が育つまち」に可能性を感じている。面白い人が育つ、集まる町を目指して面白いの解像度を上げていくことが重要では。
- 基本目標を人（町民だけでなく、面白い人）で分けていくことも今後の基本計画にお

いて重要では。

- 三次計画の課題については、追って情報提供いただきたい。
- 避難先での共助、復興の教訓を教えてほしいと言われている。そうした外の方の興味に答えられる計画になるとよい。
- まちづくりは行政だけ、民間だけではできない。町には意見を取り入れてもらうこと、それだけでなく自分で作ったと思ってくれる方が増えるようにしてもらいたい。委員の方は日頃の活動の外側に出ていく、つながっていくことを意識してもらいたい。

以 上